

授業科目名	特例・幼児理解	単位数	1
担当教員名	たなか としあき 田中 敏哲	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係 星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けた者に学位を授与します。 A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身に付けていること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身に付けていること。 F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ 乳幼児理解は、保育実践の出発点であり、援助の在り方の源でもあること、乳幼児をどう理解するかによって保育のあり方も異なってくること、一般的なイメージや発達論に基づいて乳幼児を理解するのではなく、一人一人の乳幼児のありのままを受け止め、その内面を理解することであることを学ぶ。 また、保育者自身の生育歴や経験などから培われた価値観、人生観というフィルターを通して、乳幼児を理解する危険性があることも学ぶ。			
授業の概要 (1) 保育の基本と乳幼児理解 (2) 乳幼児の発達過程 (3) 乳幼児理解に基づく保育者の援助 (4) 遊びを通しての総合的な指導 (5) 乳幼児を理解するための保育者の姿勢 (6) 乳幼児理解と評価 (7) 保育者の省察とカンファレンス (8) 乳幼児理解を基にした保護者支援と家庭との連携			

授業計画

- 第1回：保育の方法をBrush upする4つの専門性
- 第2回：乳幼児理解と保育者の援助
- 第3回：保育の計画と環境構成
- 第4回：乳幼児の遊びと発達
- 第5回：登降園場面における保育者の援助と保護者対応
- 第6回：乳幼児の遊びの発展と保育者の援助
- 第7回：協同する経験と保育者の援助
- 第8回：乳幼児のトラブルと保育者の援助
- 第9回：食育に関する活動と保育者の援助
- 第10回：「障がい児」への理解と援助の方法
- 第11回：連続を踏まえた保育と保育者の援助
- 第12回：家庭との連携と保育者の援助
- 第13回：保育者の省察とカンファレンス
- 第14回：保育実践サイクルとは
- 第15回：まとめ

定期試験

教科書

小田 豊・中坪 史典・上田 敏丈 ほか『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法 [第2版]』
建帛社

学生に対する評価

レポート評価（50％）、科目修得試験（50％）を総合して評価する。